

第1回学校の未来検討委員会 会議録

日時：令和8年1月28日（水） 19時00分から20時35分まで

場所：愛南町役場 3階 大会議室

出席委員：17名 欠席委員：3名

議題

- （1） 愛南町学校の未来検討委員会の趣旨説明について
- （2） 委員長及び副委員長の選出について
- （3） 愛南町学校の未来検討委員会の進め方について
- （4） 学校の現状について
- （5） その他

事務局

定刻となりましたので、ただいまから第1回愛南町学校の未来検討委員会を開会します。最初に、中尾教育長から御挨拶申し上げます。

教育長

皆さん、こんばんは。今日は7時からという夜の会に集まっていただきまして、ありがとうございます。

教育は子どもたちを守り育てるという営みなんですけれども、明後日、小説家の早見和真さんが愛南町で講演されるのをご存知だと思います。

早見さんが1年前来られた時、そしてつい先日、兵庫教育大の先生が、そして慶応大学の学生たちが、全く違う立場なんですけど、同じことを言いました。

ここに来て、愛南町にいと息がしやすいと。

全員が同じことを言った。ここ愛南町は本当に安心できる場所。

つまり、守り育てるという点では、子どもたちをしっかりと守るってことは、この環境は本当に素晴らしいということです。となれば、あとは育てるということですよね。

これだけ情報が過多の中、子どもたちはもう、高速道路にぽーんと投げ出されたような、ものすごい社会変化の早い流れの中で子どもたちは生きていかななくては行けない。

その子どもたちを育てるっていうことは、やはり我々は覚悟して望まないといけない。育てるということは、やっぱり今ある自己が新たな自己に高まるということなので、ただ単に寄り添っているだけでは……。しっかり育てなくてはいけない、私たちも関わらなくてはいけないし、我々大人の姿こそが子どもたちに大きな感化という影響を与えますので、今日ここにお集まりの皆様の様々なご意見等いただいてですね、大局で、大きな視点で、長い視点で、愛南町の学校をどうしていくか、ここから考えていただいて、素晴らしい、いいイメージと言いますか、諮問を我々にいただくという風な、1年ちょっとの会になります。

どうかご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

事務局

本日は最初の回ですので、ご出席いただいております皆様から自己紹介をお願いしたいと思います。

(自己紹介)

事務局

ありがとうございました。それでは、早速、協議事項に移りたいと思います。
次第の(1)愛南町学校の未来検討委員会の趣旨について、中尾教育長の方から御説明いたします。

教育長

教育長になりまして、1年ちょっと経ちました。その中で教育委員会のスタンスとして、学校再編は最重要課題だと思ひまして、昨年から全ての学校の学校運営協議会へ参加しました。1カ月半ほどかけて全ての学校でお話ししたのは、まず保護者の方の思い、これが一番。次に地域の方々の協力と理解、これがあって初めて学校再編が決まる。例えば、最近では篠山小中学校に行った時も、その旨お話しさせていただきました。我々としては再編はもう少し遠い未来と考えていましたが、保護者の方々のほうから、様々な要因で今年度で休校したいとお伺いしました。それから我々が地域へも入り、色々な話し合いを重ねて、今年度で休校、来年度で閉校となりました。これはもう本当に苦渋の判断だったと思いますが、まずは保護者の方の思いを優先しています。

今年、6カ月健診を受けた赤ちゃんは45人です。つまり、6年後に入学する可能性のある子どもは45人。皆さん御存知のとおり、少子化はもちろん進んでいるんですが、ここにいる45人をしっかり育てるのが我々の仕事です。

今、8校の小学校があります。6年後、この45人を8校の中で取り合うわけにはいかない。この少ない中で、この子たちにどんな環境を提供するのがいいか、という考え方も必要だと思います。そして、学校ってどういう意味があるのかと考えたとき、人間は感動を共有できる唯一の生き物です。ということは、学校は子どもたちが集い、感動を共有する場、と考えたとき、6年後、45人の子どもたちに最高の環境、最高の教育を共に創造したいと思って、この未来検討委員会を立ち上げました。つまり、皆さんにも新しい6年後の学校を想像していただきたいんです。今までは、統廃合検討委員会というのは「この学校をなくしてこの学校へ」という考え方でした。そうではなくて、「今この現状でどんな学校が創れるのか、創造できるのか」というような思いをもって、他市町と違う、未来検討というタイトルを付けさせていただきました。適正規模というのは国が出していますが、その指針は参考にしてください。ただし、その指針とはかけ離れた小規模校、極小規模校しか愛南町にはございません。そして最後、よくよく考えていただきたいんですが、学校のスタイルが10年後20年後、このままなんだろうか。当たり前だったことがもう崩れていっています。ただし、絶対に無くしてはいけないこと、「不易と流行」の「不易」の部分もありますので、そこを見定めながら、でも、激動の社会を生き抜く、しな

やかなたくましさを育てる、新しい学校はどんなものであるべきか、今ここで考えはじめていただきたいというのが今回の設置の趣旨でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

説明が終わりました。今の趣旨説明に関しまして、何かご意見ですとかご質問の方はございませんでしょうか。

無いようですので、続きまして、次第の(2)委員長及び副委員長の選出について、中尾教育長からお願いいたします。

教育長

事務局で案を持っておりますので御説明します。委員長は愛媛大学の露口先生へお願いしたいと考えています。露口先生は他市町でも委員長をされていらっしゃって、なおかつ愛南町を外の立場からこれまでもずっと見ていただけてきました。そして副委員長は、前回の学校統廃合検討委員会の委員でいらっしゃった〇〇さんをお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(委員全員拍手)

教育長

ありがとうございます。ダメですと言われたらどうしようかと思っておりました。

事務局

ありがとうございます。では、委員長、副委員長の方は前の席の方に移動をお願いいたします。

(委員長・副委員長、前の席へ移動)

事務局

はい。それでは、ここで中尾教育長から露口委員長へ諮問書をお渡しいたします。中尾教育長、よろしくお願いいたします。

教育長

諮問書は資料1のものです。

お時間がありありませんので読み上げはしませんが、これをお渡しして、この後ご検討いただくという形になります。どうかよろしくお願いします。

事務局

では、これからの議事進行につきましては、露口委員長にお渡しをいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

委員長

失礼いたします。皆さん、こんばんは。改めまして、愛媛大学の露口と申します。

町外から委員長を立てるっていうのが大体この再編に関する会議の常套でございまして、私は東温市の出身でございます。東温市も今再編進めてるんですが、私はノータッチで、やはり市外の方がこういう担当をされております。で、愛南町には私、年間複数回お仕事で来らしていただきまして、ここの会議室も、ちょくちょくですね、使用させていただいております。で、この10年間、わずか10年間で教え子のうち4人が愛南町出身という縁もございまして、非常に愛南確率が高いゼミでございます。そういう近さも、紹介させていただいて。

最後に、私、今研究テーマで、子どものウェルビーイングとか教員のウェルビーイング、これをやはり循環型で捉えていこうというような研究をしています。

子どもたちだけが幸せじゃなくて、その保護者の皆さんとか地域の方、そして先生方ですよ、地域一体となってこのウェルビーイング、幸せが循環していくような街づくりとか学校づくりはどうあるべきかというですね、そういったところを研究させていただいております。

また、そういった知見がこの回でも使えたらいいかなと思っております。よろしく願いいたします。

副委員長

副委員長をさせていただきます〇〇と申します。よろしくお願いいたします。自己紹介は簡単にと言われておりますので、これぐらいにして、固くないように、皆さんから意見が出やすいように、ちょっとお手伝いできたらいいなと思っております。よろしくお願いいたします。

委員長

はい、ありがとうございます。それでは、本題の方に入りたいと思います。次第の(3)愛南町学校の未来検討委員会の進め方につきまして、事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局

失礼いたします。それでは、検討委員会の進め方について、私の方から説明をさせていただきます。資料の2をご覧ください。

まず、本日の会議になりますが、この後、委員の皆様方と共通の認識を図るため、担当者から、資料に基づいて町内の教育環境の現状等について説明をさせていただきます。その後、委員長の進行のもと、意見交換という形を予定しております。

また、本検討委員会は、本日の会議を第1回として、今年度、おそらく3月末頃になろうかと思いますが、第2回目の開催を予定しております。

来年度、令和8年度については、4月から11月末をめどに6回程度の会議を開催したいと考えております。ですので、トータルで8回の会議開催ということとなります。

第2回の会議以降、会議以降の検討方法案としましては、その資料2の真ん中か

ら下にお示しをしている通りです。

愛南町における学校規模の適正化、適正配置に関する基本的な考え方についての協議、意見交換から、以下6項目ございます。この協議の順番は、またこの後の会議の進行によって色々変わってこようかと思っております。

8回目の会議を最後として、学校の未来検討委員会でまとめられた意見を事務局の方が答申書という形にまとめさせていただいて、令和9年の1月頃、ちょうど来年の今頃になるかなと思いますが、露口委員長から中尾教育長に対して答申を行っていただきたいと考えております。

その後、答申を受けた後のスケジュールですが、町教育委員会は、各地域または各学校区に出向いて、答申書の内容について地域の皆さんに対して説明会を開催したいと考えております。この説明会の開催は令和9年の4月頃から開始になるかと考えております。

この説明会は、約2か月から3か月で町内を回りまして、説明会で寄せられた御意見も参考にしながら、最終的に再編計画というような形になるかと思いますが、取りまとめを行う予定としております。当然、途中にパブリックコメント等の実施をさせていただきます。令和9年の秋頃に正式に計画という形が出来上がるかと思っておりますので、その際に、町民の皆様方やマスコミ等に対し正式に公表をしたいと考えております。

今後の委員会の進め方につきましては、以上の通りでございます。

委員長

はい、ありがとうございます。進め方につきましてご説明ございましたが、皆様方の方で何かご意見、ご質問ございますでしょうか。

委員

令和4年度に説明があって、こちらの資料だと令和6年の再編計画っていうのが出てるんですけど、この再編計画と、今これから話をしようとして計画を立てる、未来学校を考える、というのはどうリンクして動くんですか。

これだと、例えば目標で家串柏とかが令和9年と緑城辺は令和9年っていうことが書いてあるんですけど、これはこれで動くんですか。

教育長

先ほど冒頭でお話ししました通り、教育委員会のスタンスは、保護者の意見、そして地域の協力・理解というスタンスとお話ししまして、学校運営協議会でもお話ししたんですが、これは確かに計画として出されているけれども、これありきではないんですっていうことを学校運営協議会でお話ししております。

つまり、これがこのまま進むんではないんだということです。

なぜかと言いますと、この計画を立てたとき、こことここが一緒になったら複式が解消されるっていう条件があったんですね。

ただし、現状、急激な少子化で、こことここが一緒になっても複式が残るんです。ということは、この意図にそぐわない状況が今できてますので、これありきではご

ざいません。

委員長

はい、よろしいでしょうか。そのほか、いかがでしょうか。

無いようでしたら、続きまして、(4) 学校の現状の説明について、これも事務局の方からご説明をお願いいたします。

事務局

失礼いたします。では、愛南町内の学校の現状についてご説明いたしますので、資料の3の方をご覧ください。愛南町の地図に町内の小学校の写真と児童生徒数、それに小中学校の写真と児童生徒数、それに各校舎の、各学校の校舎と体育館が完成した年を一覧にしております。

まず、町内には町立の小学校が8校、中学校が3校あります。

小学校で1番大きい学校が、地図の真ん中にあります平城小学校で、児童数が191名です。1番小さいのが船越小学校。現在の児童数は6名です。

中学校で1番大きいのが御荘中学校で生徒数が161名。ここには旧内海村と旧西海町在住の生徒もスクールバスで通学しています。

このほか、宿毛市と愛南町による組合立の学校として篠山小中学校がありますが、児童生徒数の減少により今年の3月で休校、来年3月で閉校の予定となっています。

次に、各学校の校舎と体育館が建てられた年についてご説明します。

町内の小中学校は全て町村合併前に建てられています。1番古いのが緑小学校の校舎で、昭和41年の完成、今年で60年になります。1番新しいのが御荘中学校の体育館で、平成9年の完成、今年で築29年となっています。

町内の学校の建物は昭和40年代から平成1桁のうちに建てられており、平均すると築約41年で、今後大規模な改修や更新が必要な建物が多くなっています。

次に、愛南町の小中学校の児童生徒数の推移についてご説明いたしますので、資料の4をご覧ください。町村合併を行った平成16年度から、この先令和12年度までの児童生徒数の予測をグラフにしています。

まず、合併した平成16年度、町内の小学校には1,551人、中学校には792人の児童生徒が通学しておりましたが、その後は減少の一途をたどっており、今年度、令和7年度は小学生が563人、中学生が343人で、特に小学生については合併後の21年間で約3分の1にまで減少しました。

さらにこの先、令和12年度には小学生が392人、中学生が266人と、現在よりさらに約3割減少する見込みとなっています。

また、合併後これまでに小学校が11校、中学校5校が閉校となっています。

次に、町内の小中学校の状況についてご説明いたしますので、1枚めくっていただいて、資料5の方をご覧ください。まず、左側のページが町内の小学校の学校、学年別の児童数になります。

現在、篠山小学校を除いて町立の小学校が8校ありますが、このうち複式学級のない学校は平城小学校、城辺小学校、一本松小学校の3校のみとなっています。この3校以外の学校は、全学年または一部の学年で複式学級による授業を行っていま

す。これらの学校で1学年が10人を超える学校はありません。学年によってはクラスに1人だけだったり、その学年の児童が1人もいないという学校も複数ある状況です。また、クラス替えができる学校は現在、平城小学校の高学年のみで、そのほかは城辺小学校や一本松小学校を含め、通常学級は全て1クラスだけとなっており、入学から卒業まで同じメンバーで学校生活を送ることになります。

次に、中学校の状況についてご説明いたします。

中学校は、組合立の篠山中学校を除いて3校あります。

通常学級が2クラスあるのは、御荘中学校と城辺中学校の今の3年生のみで、そのほかは1クラスとなっています。

また、中学校では近年、部活動が人数不足により、ほかの学校と合同チームを組んだり、また少人数で活動が困難となり、部活動自体が廃止となる事例も出てきています。

さらに、中学校は教科担任制で授業を行っていますが、学年に1クラスしかない学校では、教科ごとの教員の配置ができず、教員が免許外の教科を受け持つ事例もあります。また、生徒の減少だけでなく、教員の減少により部活動の指導も難しくなり、現在の部活動の数を維持していくことが今後さらに難しくなることも想定されます。このような課題を今後どのように解決していくのかをこの委員会で皆様と一緒に考えていければというふうに思っております。

次に、資料をまためくっていただいて、愛南町公立小中学校再編計画をご覧ください。この計画は、令和2年から3年にかけて、愛南町学校等廃合検討委員会という、今回の学校の未来検討委員会の前身にあたる会議で答申が出されまして、その答申をもとに令和4年に策定されたものです。その後、令和6年に一部修正を行っております。

内容についてご説明いたしますので、2ページをご覧ください。

2ページ上の1の学校の再編の枠組み及び再編年度は次の通りとする。ということで、(1)の小学校については、再編により複式学級の解消が可能な地域の学校は、積極的に再編を推進する。また、再編しても複式学級が解消できない地域の学校においては、再編によって0人学級の解消を図り、当面の間、学校の存続に努める。と記されています。その下の決定事項として、①長月小学校は、平城小学校へ令和6年度に再編する。②久良小学校は城辺小学校へ令和6年度に再編するとありますが、この2件については予定どおり令和6年度に再編されました。その下の目標について、①家串小学校と柏小学校は、令和9年度までの再編について協議、意見交換を続ける。同じく②緑小学校と城辺小学校、③の福浦小学校と船越小学校も、令和9年度までの再編について協議、意見交換を続けるとなっています。

次に、(2)の中学校については、再編することで、学習活動に適正な人数となる学級編成、部活動の選択肢の拡充、また、クラス替えのできるクラス数を確保する。

本再編計画に基づき再編された後、各クラス各学年で2クラスを確保できない年度が予想される時点で、新たな再編並びに校舎の在り方等について検討を開始する。とあります。その下の決定事項として、内海中学校は御荘中学校へ令和6年度に再編するとありますが、これについては予定通り令和6年に再編されました。

下の目標について、一本松中学校と城辺中学校は、令和9年度までの再編につい

て協議を続けるとされています。

先ほど教育長の方からもお話がありましたが、中尾教育長の就任後、各学校の学校運営協議会を訪問し、地域や保護者の方からもご意見をお伺いしているところではありますが、この令和9年度までの再編について、協議、意見交換を続けるとなっている学校については、地域や保護者の方から、学校再編の時期や再編する場所などについて様々なご意見があり、現在のところ再編の目処が立っておりません。先ほど少しお話もありましたが、その再編の枠組みや時期についてもこの委員会で再検討していく必要があるというふうに考えております。

次に、この再編計画の5ページをご覧ください。

当時の愛南町学校統廃合検討委員会が示した望ましい学校規模とありますが、この(1)の小学校の望ましい学校規模は12学級で、児童数が226人から300人、下限の学校規模はおおむね60人というふうにされております。

また、中学校においては、(2)になりますが、望ましい学校規模は6学級で、生徒数が123人から150人、下限の学校規模がおおむね60人という風に、当時決定されました。また、(2)の法令上国が定める標準学級数とありますが、ここについては、小学校、中学校とも12学級以上となっております。(3)においても、小学校、中学校は12学級以上が適正規模校とされていますが、現在、愛南町内に適正規模校はありません。全ての学校が小規模校、過小規模校、また極小規模校となっております。

さらに1ページめくっていただきますと、文部科学省が策定したカラー版の手引きを付けております。この中に、国が示す学校の適正規模、適正配置の基本的な考え方や対応の目安が書かれておりますが、少し長くなりましたので、この後については皆さんの方で後ほどお目通しいただければというふうに思っております。

以上で、学校の現状に関する説明を終わります。

委員長

はい、ありがとうございました。それでは、皆様方の方からご質問等ございましたらお願いいたします。

(質問なし)

委員長

はい。またこの後、発言の機会もございますので、その折にでも構いませんので、疑問点等ございましたら、後でお願いいたします。

それでは次に、(5)その他に移りたいと思います。初回の会議ということでございますので、皆様方の率直なご意見をまず最初にお聞かせいただけたらと思っております。各委員の皆様方のご意見やお気づきの点など、何でも構いませんので、一言何かございましたらご発言いただけたらと思います。

委員

私は、役場の職員をずっとしていたんですが、町の職員として、小学校・中学校の閉校に関わってきました。

PTA の会長、役員としましては、自分の子どもが行っていた〇〇小学校・〇〇中学校の閉校と関わってきました。

で、統廃合したんですけれど、その後に、統合せんかったらよかった、っていうような話は一切聞いてません。

どっちか言うと、なるようになるかなと。

〇〇小学校で統廃合すると一番問題になってくるのが、通学距離とか通学時間というのがちょっと気になるところです。

この計画では、〇〇小学校にとってということが考えられますが、〇〇中学校が統廃合した時に、〇〇中学校と〇〇中学校が一緒になろうよっていう話になっとったんですが、決裂いたしまして、中心的には、〇〇中学校の保護者の方が、小さな学校と一緒にしてもいけないので、もうそれやったら、いっそのこと〇〇中学校に統合したいというような話があって、一気にその中学校との統合はなくなって、〇〇中学校への統廃合が決定しました。その後も色々、地域の方とかとも、ほんと大喧嘩になるぐらいの話し合いとか色々ありましたが、統廃合してしまうと、統廃合せんかったらよかったっていう話は一切ありませんでした。

いろんな話し合いの中ではいろんな問題が出たんですが、私の体験談的なことを少し話させていただきました。

委員長

ありがとうございます。再編後の住民の皆様方の、後悔なしというエピソードをいただきました。

他、皆様方、いかがでしょうか。

委員

私は、小さい学校の環境がいいなって聞いて〇〇地域に住んでるんですけども、その時にすぐに統廃合の話が出てきて。統廃合の話、小学校だけじゃなくて、保育園の方も話があって感じたのが、その話が出ると、どうせなくなるんだったら他に行きやいいんだっていうこと。それだけかどうか分かりませんが、そういう話が出て、抵抗する子、他の保育所に行く子がかかり出てきてます。

保育所に関しては、10 数名いたんですけども、10 名を切ったらもう統廃合の対象になりますよという話があった途端に4年やってという事実があります。

小学校の方も、これ今学年が0のところなんですけども、実際はいたんですけども、統廃合の話出た後に、なくなるんだたらっていうようなことで出て行く子たちがいて、これの見通し、今資料5に入ってるようなんですけども、もうこんな数が入学してくるような予定も今地域では全くないような状況になってしまってますので、ここでの会議の内容を公表するというようなことありましたけども、やっぱり丁寧に公表、どういう形で公表するのかはまだ聞いてないんですけども、丁寧に公表して、丁寧な説明というのが非常に重要になってくるかなと思うので、その辺をお願いしたいなと思います。

委員長

ありがとうございます。この議論を進めていく中で、やはり公表と丁寧な説明ですかね。書き留めておきたいと思います。

委員

先ほど通学距離と通学時間の問題っていうのがありましたが、やはり〇〇の子どもたちが仮に統廃合してどちらに行くかになった時に、通学時間や通学距離っていうのはやっぱり考えないといけないのかなっていう風に思っています。

学校の方としましても、保護者の意向を大事に考えておりますので、以前の再編の計画の時に、保護者が考えたことに対して学校は何も申し上げませんというところで、学校、どんどん使っていただいてもいいですけども、学校の意見としては申し上げませんというスタンスでした。そういう風にせざるを得ないのかなという風に学校の立場としては考えておりますが、地域に根ざした教育を展開させていただいております。その効果も感じておりますので、地域に学校があるという利点も、同時に学校としては感じております。そのあたりも含めて、将来的に人数が激減した時にどういう風に学校を存続させていくのか、統廃合させていくのかということはやっぱり十分に検討していく必要があると考えております。

委員長

はい、ありがとうございました。校長先生から、重みのあるお話をいただきました。

委員

小学校と中学校で同じかどうかは分からないんですけど、私はほとんど中学校で教員をしてきまして、やっぱりさっきの適正の規模ではないですが、クラスが複数あるとか、クラス替えができるであるとか、中学校の場合は教科担任制ですので、複数の教員がお互いにこう切磋琢磨したりとかっていう、教員側の立場で言うともそういうことも必要であるし、1人で何もかも全てをこうやるというのにはなかなかやっぱその限界があるというか、学び合いができないというところもあったりとかするのと、子どもたちの立場で言うと、今でも〇〇中学校は2クラスと、1クラスがこう混合してますが、私は、特別活動とか運動会で、ブロックで活動するというのがすごく貴重な体験だと子どもたちは思っていますが、今でいくと3年生は、今年は2クラスだったんですけど、2年生、1年生は1クラスなので、2つに分けた時に、クラスの中で2つのブロックの子たちが存在している。すごいガーッと盛り上がって、片方は勝つ、片方は負ける。勝ち負けの問題ではないんですけど、そのあと一緒にクラスの中で過ごす。なんかせっかく喜びたい、喜んで「やったね」って、こう分かち合いたい時に両方の立場の子が存在してたりとかして、微妙な状況もあったりとかして。そういうこともあって、やはり複数のそういう学級があるってすごく大事だなと思っています。

それと、中学校も地域のことは学習はしてるんですけど、小学校って本当にこう、話を色々聞いてて、地域の中の方と一緒に活動することが多いんですけど、中学校も多くはなってきたとはいえ、小学校ほどではないということもあって、ある程度

の人数の統合というのはやはり考えたらいいんではないかな。

それと、別の視点で言うと、愛南町の防災的な立場から、やはりいろんな避難のことを考えた時に、安全なところに学校があったらいいなと、これは個人の考えですが、思っています。

委員長

ありがとうございました。部活も大事ですけど、学校行事の質の確保も必要であると。

なお、学校教育の中では、今、対話を取り入れた授業であるとか、あとは探求ですね、調べてまとめて発表してみたいな活動がたくさん入ってきております。やはり、あまり子どもの数が少なすぎると、こういった学習活動の質の保証っていうのも難しくなってくるかなというところも、学校の中ではあると思います。

委員

私の子どもは〇〇小学校におりまして、小規模校におります。長男の方が〇〇中学校に行きました。私は、複式学級も悪くはないなとは思ってまして、今でも息子は小学校に上の学年とも下の学年の子たちとも、みんなで集まって遊んだりしております。地域の方も、〇〇の方はよく入ってきてくれますので、地域の方の顔も覚えてるっていうので、それは悪くないなとは思ってます。でも、統合するのは統合するので、たくさん人がいるっていうのもいいことだなと思ってるので、それはどっちとも選べないなっていう考えがあります。

で、1つちょっと気になってるのが、中学校に入って、息子、サッカー部に入ってるんですけど、スクールバスでは賄いきれてなくて、親の送迎を結構してます。なので、それこそ〇〇先生が言ったみたいに、もっと遠くになった子たちの負担をちょっと考えてあげてほしいなっていうことがあります。

委員長

ありがとうございます。どちらも選びにくいという心境であるとか。あと、部活の送迎に親の負担がかかってるっていう、これも貴重な事実だと思います。

委員

〇〇って保育園から中学校までクラス替えのない特殊な地域なんですけど、親の意見としては、9年に〇〇中学校と再編するという話もありますが、他の保護者も言っておられましたが、〇〇は津波の心配のない地域なんですけど、統合したらどこへ行くのか。〇〇だったら親は心配だという話もありましたので、この話は慎重に進めないといけないかなと思います。

委員長

はい、ありがとうございます。防災の視点からですね。再編するならどこにまとめていくかと。これも貴重な意見だと思います。

委員

私の子どもは〇〇小学校に今通ってるんですけど、今統合先の候補として〇〇小学校と統合するかもしれないって話が前から出てまして。一応、〇〇と〇〇、距離が近いようで遠いんですけど、〇〇の子は〇〇保育園に通う子が多いので、顔見知りと言いますか仲がいいのもあって、で、〇〇小学校自体も〇〇小学校と遠足を一緒にしたりとか、マラソン大会とかのイベントを一緒にしたりすることもあるって、そこら辺の子どもたちの仲はいいんですけど、その場所的に、〇〇が〇〇に統合してくると、中心部から離れてしまうのもあるし、〇〇の人は〇〇の人で人数が多いんで、〇〇小学校になるべく統合するんだったら来てほしいという、いろんな、地域のジレンマじゃないですけど、そういうしがらみもあるので、そこらへんはちょっと色々協議しないといけないと思うんですけど、この前、去年か一昨年やったかな、教育長が来てくれた時に、なるべく〇〇は残して〇〇でやっていきたいなっていうのは周りの保護者は言ってたので、多分時代の流れで人数もどんどん減っていくとは思いますが、多分徐々にまた減っていくとは思いますが。で、〇〇も〇人になって、男の子だけの学校になってるので、そこらへんちょっと難しいところはあるとは思いますが、こういった話し合いで、皆さんの意見を聞きながら、何か参考にできることとか協力できることがあればやっていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

委員長

はい、ありがとうございます。極小規模校の実情をお話いただきました。

委員

〇〇地区のことなんですけど、〇〇さんから先ほど発言がありましたが、〇〇小学校は、6集落あるんですけど、地域の中のもう本当の核になっています。特に〇〇地区の防災に関する住民への周知とか教育とかの中心核となる学校になっていて、もし小学校が無くなったら、ここの地区どうなるんやろうかっていうようなことをよく考えます。

地区からやっぱり小学校がなくなったら、地域の力っていうのがものすごい、半減ぐらいするんじゃないかなっていうぐらい、小学校の価値って言いますかね、その地域に対する価値はかなり高いものがあるのかなということを、公民館活動として、日々感じてるところです。

また〇〇さんの方から、〇〇が〇〇に来てもらうたらっていうのもあるんですけど、〇〇小学校というのはまた〇〇地区っていう、また別のところからこられて、それ言いよったら、また距離が長くなって、色々あるんで、多方面から考えていく必要はあるのかなと考えています。

委員

意見ではなく質問なんですけど、前回の再編計画の中で、再編については決定された長月小学校、久良小学校、内海中学校については予定通り実施していただいているみたいですが、再編に関する負担軽減ですね、こう2項目ほど、通学保障とその他

の負担の軽減・助成、これについて、予定通り行われとるか、どんなことが行われてたのか、教えていただけたらと思います。

事務局

この再編計画の3ページの中に、通学保障ということで、スクールバスの整備、路線バス、あいなんバスの活用その他の通学に発生する費用など、地域や家庭の実情を勘案した上で通学保障の策を講じるとありますが、合併後に再編した学校については、すべて統合先の方へスクールバスを整備しております。登下校については、路線バス等ではなくスクールバスで送迎しております。基本的に土日の部活の際にも運行をしておりますが、先ほどもちらっと、サッカー部ですかね、下校の際、間に合わない事例というのがありますが、基本的にはそういうことのないようにしていますが、ちょっとそこは、〇〇中学校の実情を聞きまして、また学校の方とも相談をするようにしようかと思います。基本的には土日についても運行していますので、ちょっとそこは確認します。

委員

これも少子化の影響やと思うんですけど、やっぱり部活、1つの学校ではできないので、3つの学校で合同練習をしていますので、中学校で練習ができないという現状で、集まってやっていますので、部活の時間までやっていると、学校まで帰る道で余分な時間がかかるので、それで間に合わないっていう現状があるんですね。なので、学校も間に合うようには工夫はしてくれてるんですけど、どうしても練習場所とかそういうことになってくると、ちょっとそこまで子どもにそこを我慢させれないっていう親の心もあって、そういう時は迎えに行くようにしています。

事務局

合同練習の際に間に合わないという話を他の方からも聞いたことがありまして、その際に、学校としては、そのスクールバスに乗る子については少し終了を早めてという話を聞いております。ただ、最後まで練習をすると他の部活より戻るのが遅くなるので間に合わないという声を聞いたことがあります。ここについては2便出すというのも、〇〇から〇〇まで行って帰ってきてとなると1時間以上かかってしまいますので、運行方法をちょっと検討する必要があるかと思うんですが、そこについてはまた協議をしたいと思います。

スクールバスの他には、その他の費用負担の助成ということで、再編先への通学に伴う体操服とか制服とか教材費については全額助成で対応するというので、基本的には、学校再編がある場合には保護者の負担というのは基本的に0ということにしております。

委員長

ありがとうございました。通学保障、移動保障ですかね、これのアップデートがやっぱり必要ということですね。ありがとうございます。

委員

はい、よくわかりました。はい。合同練習ですか。その時は違う学校で練習するわけですね。南レクとかで。その送迎は特にはしてもらえる。

委員

そこは学校がちょっと色々考慮してくれて、学校に自転車を1台置かせてもらってるので、中学校から南レクに行くのは自転車で、行かせてはもらってます。

委員長

はい、ありがとうございました。

委員

私は地域の区長の代表としてここに来ているんですが、次の3月末でもう区長終わって2年間区長をしとるので、4月からはもう何もなくなる、今回、区長で出て、また来年度もこの会に参加するいう、変わらないことでよろしいんでしょうかね、新しい〇〇地域の区長さんが代わりに出るんじゃないかと。

委員長

次の役職者の方が出席をされるという。

教育長

そのまま継続です。

委員長

はい、大変失礼いたしました。

委員

統廃合は必要だと思うんですけど、ちょっと1つ、思い出話というか、参考というか。

私、統廃合経験者なんです。

昔、〇〇小学校がありました。その話が1年生の終わりだったかな、出た時に、絶対したくないっていう作文を書いて、1年間延びて、3年生まで〇〇小学校で複式学級だったんですけど、過ぎしました。

4年から〇〇小学校に入学っていうことを自分が実際にしてきたんですけど、その時の子どもの気持ち、思い出すとね、悔しさが出てくるというか、そういう風なのもあるんで、子どもの気持ちとかもよく汲んであげてほしいと思います。

やっぱりクラスもいっぱいあった方がいいかもしれん。私、12年間クラス替えしたことないんで、ちょっとそこらへんもよくわからないんですけど、統廃合は必要だけど、子どもの目線にも立ってやってくださいって思います。

委員長

はい、ありがとうございます。極めて重要な視点だと思います。

進めていく中で、子どもたちの気持ちであるとか、子どもたちがどうありたいかですね、このあたりも丁寧にくみ取っていきたいと思います。

委員

日本全国、どこもこういった少子化問題があって、色々模索している様子を見ますが、1つの方法としては、ホームページ等で全国から児童生徒を集めたりする方法。しかし、これには寮を作ったり、職員もたくさん必要です。小中学生を全国から集めて、そういう施設を作るなら、多大なる経費もかかると思うし。また、色々な方法で、例えば若い移住者を呼び込むいう方法もあるんですが、これも全国から来る移住者では、松山みたいな県庁所在地の若い人らが働ける場所、そして産婦人科や子育て、学校なんかがある所に集まって来るみたいですが、ここ愛南町の場合はちょっとそういったのも乏しいことになってるので、この1番の主役の大事な児童生徒さんが、超少子化になっていっている愛南町で大変な問題があるかとは思いますが、少なくなったとしても、愛南町で小中学校を統廃合して2つか3つになったとしても、何十年か先に、流れるままに、そんなに簡単にできるものでもないような感じもするので、流れるままにできたら、愛南町らしい素晴らしい学校を模索して行って、地域住民の人らとも交流をして、楽しくうまくやっていく方法はきっとあると思うので、あんまり高望みせずに、流れる自然のままに、ちょっとずつ考えていこうかなと思うのもいいんじゃないかと思います。

委員長

はい、ありがとうございます。

町外からの移住とかですね、これ、高校の改革の時は愛媛県も頑張ってやりまして、今、おかげ様で、島根県に続いて県外から高校生が愛媛県に流入をしてきております。ただ、高校卒業したらまたちょっと帰ってしまうところもあるんですが、小中学生であれば親御さんも来られる可能性も高いので、この再編を機にですね、人口減少問題にもちょっとこう一矢報いるのかな、とかですね、そのためには多々ハードルがあるというお話をいただいたと思います。

委員

私は〇〇出身で、結婚して愛南町に嫁いできたんですけども、小学校も中学校もクラスは4クラス以上あるような学校だったので、こっちの小学校に自分の子どもが入学して、もう1クラスしかないっていうのに衝撃を非常に受けました。

ただ、人数が多いからいいっていう問題でもないと思っていて、その子どもたちが〇〇小学校で過ごす中で、地域の方との関わりっていうのが非常に多くて、心の充実っていうんですか、いろんな経験ができるので、人間としての豊かな気持ちが作れるんじゃないかなと思ってます。

そういうその地域との関わり合いとか、いろんなその地域でしか経験できないことっていうのは残していった方がいいと思っていますので、その統合して人数が多くなることも非常に大事だと思うんですけども、その地域との関わり合い、人と

の触れ合いっていうのをたくさんできるような、なんかうまくどちらもいいとこ取りできるような学校ができたらなと思ってます。

委員長

ありがとうございます。地域との関わり合い、心の充実ができるようなですね、小規模校の良さをどう残していくかっていう視点だと思います。

委員

〇〇さんとも被るかもしれないですけど、私も愛南町出身で、もうすでに廃校になった学校出身なんですけど、小学校も中学校もクラス10人で、なんか勉強も運動もこう全力でやってきたみたいな感じがあって、今は、子どもが〇〇小学校通ってるんですけど、なんか、陸上とか、水泳とか、今、希望者だけみたいになっとなんですけど、私たちの頃は、なんかもう、強制というか、全員が必ずやらんといけなくて、結構、自分の中ではいい経験やったなと思うんですけど、今は娘が〇〇小学校通ってるんですが、なんか、ガッツが足りんというか、時代の流れもあるかもしれないんですけど、寂しい気持ちはあります。実際、母校がもう今、跡形もなくなってるんですけど、そんなのもちょっと、寂しいなとは思っています。

委員長

はい、〇〇委員さん、どうですか。陸上とか水泳はやはり全員参加だと。ありがとうございます。ガッツが足らんということですね。これも大事なご意見だと思います。

委員

幼稚園の方の現状をお知らせしますと、本年、今年度がもう全園児8名で、この5年ぐらいで激減しまして、来年も6名ほどになりそうで、その中でこう関わり合いを持ちながら、子どもたち同士の中で成長できるようになっていうところを先生たちと目指しながら、日々過ごしてるんですけど、持って行き方も難しかったり、なかなかこう、少人数っていう難しさも感じつつ、でも子どもなので、少人数でも学べる場所はすごくあると思います。また、先ほどの地域の方が入って来られてっていうのは本当にいいことだなと思ったりで、幼稚園の方もすごく少ないので、教育長さんも言われてた10年先とかのお話も含めて、ちょっとう、10年先の私の夢といいますか、小学校もあり中学校もあり幼稚園もありっていう、また地域の方も参加されて、愛南町が人数減っていく中で、0歳からほんとに亡くなられていくまで、本当にその間みんな協力して、みんなの生きがいになるような、関係ができるような、学校編成なんて難しいのかもしれませんが、なんかそこら辺を目指していくといいんだろうな、子どもたちにとって、また高齢者の方とかにとってもいいんだろうなっていうのは、すごく理想的には思ってるんですけど、それが実際どういったところで実現できるのかっていうのは全然私も考えが及ばないんですけど、なんかそういうところを目指していくために、でも、まず、少しずつの統合は必要なのかもしれませんが、でも本当に皆さんいろんな意見を今聞いてて、それぞれの

良さはあると思うので、本当に話し合いが大事で、こう、子どもたち、保護者の方の本当の思いをとことん話し合って決めていくべきものなんだろうなと思って、今回参加させてもらって、つくづく感じてるところです。

1つ、去年の夏に、〇〇小学校と中学校の運動会、見に行かさせてもらって、〇〇って、合同で運動会してまして、で、小学生の踊りの、「可愛いだけじゃダメですか」を、中学生が一緒になって、こう歌ってあげたりしてたのを見て、なんか、小学校も中学校も一緒、中学校だけの活動もあるべきだとかいうお話もさっきも出ましたが、小学校でも、小中一緒にとかっていう、そういう、いろんな方のとの関わりが良くも悪くも経験するっていうのは、やっぱり子どもってほんとに大事だって。

あと、今幼児教育してまして、ほんとにその子にとっていいか悪いかわからない、とにかくいろんな経験させてあげようっていうことはやってますっていう。

はい、すいません。なんか夢のような話です。

委員長

非常に壮大な、小中のみならず、保幼と、あと高校もそうですよね。そして社会教育も視野に入れた計画になればいいですね。

ちょっところ、どんと広げていただきました。

委員

率直な私の意見というか思いとして、ずっとスポーツを通して感じてきた、子どもたちが減っている、愛南町だけではスポ少の大会ができなくなっているっていう現実をずっと感じてきてて、今回、児童数の資料を目の当たりにして、私が50数年前の小学校の時の、〇〇小学校だったんですけども、全校児童が町全体のこれくらい、500ちょいぐらいだったのかなっていうような感じで、中学校の生徒数も当時の〇〇中学校1学校の全校数ぐらいかなって見てるんですけども。

というので、漠然と愛南町、今の現状だと愛南町で1校、中学校も1校でいいだろうなっていう思いはあります。

先ほど資料にありました適正なんかのことも考えると、実情上、愛南町では1校でいいのかなと思ってます。

ただ、愛南町と言っても旧町村で地域性が色々あり、人間性も色々ありまして、大人の町の統合でさえなかなかうまくいかなかった状況もあるので、特に子どもたちのことを考えると、1校に絞ってしまうっていうのは難しいのかもしれないんですけども、冒頭、中尾教育長が言われたように、学校の箱だけを考えるではなくて、教育含めて、新たな学校のあり方、教育のあり方、方法論として、先ほどの3時以降各地域で子どもたちを活動させるであるとか、朝、例えば働き方改革で大変だったら、朝の始業までできるかできないかわからないけど、始業を遅らせてお母さんたちの負担を減らすであるとか、方法論は色々今からの意見とか考え方でまとめているって、その想像力を持って、学校っていうものだけじゃなくて、教育を含めて新たな愛南町スタイルを作って行けたらいいんじゃないかなって。

それがどんどん、どんどんその学校要領までも変えるぐらいのモデルケースができ

たらしいんじゃないかなと思ってます。

委員長

これはまた〇〇委員を超える壮大な、愛南スタイルですね。で、学習指導要領の改訂、ここから提案するって、ほんと、こう、士気の高まるようなお話をいただきました。

じゃあ、今度は副委員長さんの方からお願いします。

副委員長

ありがとうございます。皆さんのご意見をお聞きしまして、いや、愛南ってあったかいなと思って、ちょっと感動しています。

私自身は〇〇地区に住んでいて、3人子育てをしてきました。愛南で子育てをしてきて、私も元々愛南の〇〇出身なんですけど、私自身も複式学級でずっと育ってきました。

私の子どもたちも〇〇小学校で育ってきたんですけど、地域のことをちょっと話させてもらおうと、すごく距離が近いんです。皆さんのところもそうだろうとは思いますが、子どもたちが帰ってきたら、おかえりって地域の人たちが迎えてくれたりとか、それで、子どもたちもただいまっていうのを普通に言うっていう、うちの子どもたちはそんなふうにして、地域の方たちから愛情をたくさんいただいて、多くの方たちに関わっていただいて育ってきました。で、何が言いたいかっていうと、その、その年齢の時にしかもらえない愛情っていうのがあるんですよ。なんかそれを愛南の子どもたちには一心に受け取ってほしいなっていうのがあります。それはやっぱり心の土台をしっかりとしたものを作ってほしいっていう思いもあります。ここが自分たちの居場所なんだ、ここにいていいんだ、自分たちは愛されているんだっていう思いを持って社会に飛び出してほしいなっていう私の思いがあって、今も〇〇小学校の児童たちと関わりがあるんですけど、そんなふうに、私も自分の子どもたちにしてもらったように、そういう風にこう返していついていっているところであります。

ただ、その中で、小学校の授業に入らせていただくことが多いんですけど、その時に思ったことが、先日、慶應義塾大学のゼミ生たちが授業と一緒にしてくれることがありました。その時、校長先生が今日は人数が多いから、人数が多い時にできる競技にしようって言って、体育の授業をサッカーとドッジボールにしました。普段できなかったサッカー、その大学生とのサッカーとかドッジボールとかっていう、そのことをしている子どもたちの顔を見て私が思ったのは、どんなに地域の人たちが愛情を重ねても、その同年代の子たちとのわちゃわちゃするのにはかなわないんだなっていうのを、ちょっと先日痛感したことがあって。それもあって、できたらちょっと人数のある学校で、こう、教育っていうのもしてほしい。ただし、地域との繋がりがっていうのも無くさずしてほしいので、なんかこう、先ほどみたいに、壮大な話になってってしまうんですけど、それぐらい、やっぱり愛南だからこそできるみたいな大事な部分っていうのをしっかりと大切に、このお話を良い方向に進めていけたらいいなと思っています。

先ほど〇〇さんの方からあったように、〇〇小学校と〇〇自主防災会はよく一緒に活動させてもらってますけど、学校が無くなったとて、私たちのスタンスは変わらないのと、私たちが子どもたちにかける愛情っていうのは変わらないので、なんかそこを忘れずにいたいなっていう思いがあります。

委員長

はい、思いを綴っていただきました。そうしましたら、ちょっとまとめというわけではないんですが、今日皆様方から、やはり学校の面で、学習とか部活とか行事ですかね、これの質をどう担保していくかという話であったり、あと保護者の御負担の話、登下校、通学の保障、あるいはその他、制服含めて、この辺りをどうするであるとか、バスも含めてですね。

さらには、ちょっと大きな話もたくさん出てまいりまして、移住までこう見通せるような魅力的な学校にしてはどうかとかですね、ちょっとハードルもあるけれど。更に、この地域の良さ、繋がりの方を残したまま、新しい再編の世界に移行はできないだろうかとか、更に、学校の話ではあるんだけど、保幼小中高、社会体育、社会教育含めて、もうちょっとこう、ビッグピクチャー、大きな絵を描いてはどうだろうかとかですね、その中での小中学校の在り方という形で締めていってもいいですよ。

愛南スタイルの学校ってなんだろうっていう、こういった問いもいただいたと思います。これから1年間ございますので、今日出たご意見等参考にしながら、そして今日いただいた色んな問いについて解明しながら進めていけたらなと思っております。

その際に、ぜひちょっと皆様方にもご同意いただけたらと思うのが、子どもの思いとか気持ち、保護者の思い、気持ちを集めていくという作業をさせてもらえたらなと思っております。今日は代表ということで来られているんですが、今日来られてない方々のご意向とか、あるいは子ども1人1人がどう考えてるかとか、あるいは、もうちょっと広げて、地域の方全員は難しいかもわかりません。あるいは学校の先生方も含めていいのかなと思っております。

愛南で、教育に関わる方がどういう思いを持ってるのかっていうのは、視覚化した上で議論を進めていきたいなっていうのが1つ。もう1つは、愛南町の他にも、例えば北海道なんて、もうこういうケースでどんどん皆さん動いてます。すでにもう義務教育学校1校にまとめてとかですね、新しい実践をと、それで移住をと、私たちが直面している課題をちょっと半歩先進で進めているブロックもありますので、既にそういう情報持ってる方からちょっとお話をいただいたりとか、県外の先進事例、先行事例等ですね。そういう、すでにもうクリアまでは難しいんですけど、着手している方々の思いや進捗状況等も参考にしながら、こういう構想ができたらなと思っております。

あとは愛南リソースの取りまとめというか、この地域にはどんな資源があるのかっていうのもちょっとこう整理していただけると、議論していくときに有益かなと。

さっきも言いましたが、高校とかも小中の改革進めていく上でも非常に重要なリソース、保育所、幼稚園の方ですよ、で、地域振興産業がとか。そういった、

この地域の中の教育に活用できる資源が何かっていう、その辺りをちょっと整理していくと、またこう議論も膨らんでいきますし、地に足ついたものになっていくかな、無いものは出てこないわけですからね、というところを感じた次第でございます。

それでは、ちょうど時間になりました。この辺りで今日は終わりにしたいと思います。皆様方、貴重なご意見、誠にありがとうございました。お疲れ様でした。

事務局に戻します。

事務局

露口委員長、どうもありがとうございました。

それでは、閉会挨拶を中尾教育長が申し上げます。

教育長

本当に壮大な計画、やっぱりキーワードになったのは愛南スタイルだと思います。

この町でしかできない教育を皆さんのお力で想像していくこの1年にさせていただいたと思います。本当に長時間ありがとうございました。

事務局

では、これをもちまして第1回愛南町学校の未来検討委員会を閉会いたします。本日はお疲れ様でした。